

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
4	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名（原題／訳）</b> Risk factors for coronary heart disease in 55- and 35-year-old men and women in Sweden and Estonia. スウェーデンとエストニアにおける 55 歳と 35 歳の男女の冠動脈性心疾患の危険因子	
<b>執筆者</b> Johansson J, Viigimaa M, Jensen-Urstad M, Krakau I, Hansson LO.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b> J Intern Med; 252(6):551-60	
<b>キーワード</b> コレステロール、冠動脈性心疾患、喫煙	
<b>要 旨</b> 背景 西欧の平均寿命は伸びつつあるのに対し、東欧の平均寿命は逆に短くなる傾向を示しており、この差の 50%は冠動脈性心疾患の死亡率によると考えられている。この West-to-East gap を明らかにするために、西欧のスウェーデンと東欧のエストニアの冠動脈性心疾患の危険因子を比較した。エストニアの 55 歳の男女の冠動脈性心疾患の死亡率は、スウェーデンに比し約 2～4 倍である。 対象と方法 この SWESTONIA 研究では、スウェーデンの Sollentuna 郡、エストニアの Tartu 郡からランダムに抽出された 35 歳と 55 歳の男女 800 人（各年齢、性別、地域から 100 人ずつ）を対象として研究への参加が要請され、スウェーデン、エストニアでそれぞれ 272 人、277 人の参加者を得た（応答率は 63～77%）。主な冠動脈性心疾患の危険因子（喫煙、血圧、アポ・リポ蛋白濃度、フィブリノーゲン、血糖値）や生活環境要因（脂質の摂取構成、飲酒、身体活動量、意識）について両国の比較を実施した。 結果 55 歳の男性では、エストニアの喫煙率は 57%、スウェーデンでは 20%であった。これよりはやや弱いもののほぼ同様の差が 35 歳の男女でも見られたが、55 歳の女性の喫煙率は両国とも 20%以下であった。エストニアの 55 歳の女性は、スウェーデンの同年齢の女性に比べて、HDL コレステロール値が低く、LDL コレステロール値が高かった。Scale-score 質問表の結果、エストニアはスウェーデンよりも飽和脂肪が多く含まれている食品を多く摂取していた。エストニアの集団は、スウェーデンに比し、自らが 60 歳以前に冠動脈性心疾患を発症する可能性があるかと答えた者が多いにもかかわらず、生活習慣が冠動脈性心疾患の発症に影響すると答えた人の割合は逆に低かった。またエストニアの BMI の平均値はスウェーデンよりも高かったが、収縮期血圧値、拡張期血圧値、中性脂肪、血糖値、フィブリノーゲンは両国で差を認めなかった。スウェーデンの 55 歳の男女では、エストニアに比べて有意に飲酒量が多かったが、35 歳では差はなかった。飲酒タイプでは、スウェーデンの集団はワインの摂取量が多く、エストニアの集団は濃いリキュールの摂取量が多かった。 結論 スウェーデンに比し、非常に高いエストニア男性の冠動脈性心疾患死亡率は、喫煙率の大きな差によって説明される。高 LDL コレステロール、低 HDL コレステロールは、やはりエストニア女性の高い冠動脈性心疾患死亡率を説明できる。さらに高い飽和脂肪摂取、飲酒パターン（総量が少なく特にワインが少ない）、意識の差（生活習慣の重要性の認識欠如）などもエストニアの高い冠動脈性心疾患死亡率に寄与している。	